

# 99-278

## 問題文

22歳女性。中等度のアトピー性皮膚炎にて受診している。今回、顔面、頸部、体幹、腕等に炎症を認めたため、次の薬剤が処方された。

(処方1)

タクロリムス水和物軟膏 0.1% 1回適量  
1日2回 赤みが強い部位に塗布 全量 20 g

(処方2)

デキサメタゾン吉草酸エステル軟膏 0.12% 1回適量  
1日2回 頸部、体幹、腕に塗布 全量 30 g

(処方3)

ヒルドイドローション 0.3% <sup>(注)</sup> 1回適量  
1日2回 全身に塗布 全量 150 g

(注：ヘパリン類似物質製剤)

(処方4)

アゼラスチン塩酸塩錠 1 mg 1回1錠 (1日2錠)  
1日2回 朝食後就寝前 7日分

## 問278

次の記述のうち、服薬指導として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. タクロリムス水和物軟膏は皮膚萎縮の副作用があるので、顔面に使用しないように指導した。
2. デキサメタゾン吉草酸エステル軟膏は、炎症が軽くなれば使用を直ちに中止するように指導した。
3. ヒルドイドローションは、入浴直後に使用すると効果的であると指導した。
4. アゼラスチン塩酸塩錠は眠気を誘発するため、車の運転をしないように指導した。

## 問279

ヒルドイドローション0.3%に含まれる添加物とその役割との組み合わせのうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

- | ● 添加物            | 役割   |
|------------------|------|
| 1. グリセリン         | 緩衝剤  |
| 2. パラオキシ安息香酸エチル  | 保存剤  |
| 3. セタノール         | 抗酸化剤 |
| 4. 白色ワセリン        | 乳化剤  |
| 5. モノステアリン酸グリセリン | 等張化剤 |

## 解答

問278：3, 4問279：2

## 解説

### 問278

選択肢 1 ですが  
皮膚萎縮とは、表皮が薄くなる副作用です。ステロイドの代表的な副作用の1つです。タクロリムス水和物軟膏（プロトピック軟膏）はステロイドではありません。ステロイドによる皮膚萎縮などが心配される時に用いられることもある薬です。顔や首といった、皮膚のうすい部位での効き目がよいことが知られています。よっ

て、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

炎症が軽くなってきた時に、どのように休薬していくかは自己判断ではいけません。症状の様子を見ながら、医師の判断に従います。原則としては、徐々に弱いステロイドにしていきます。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3,4 は、正しい記述です。

以上より、正解は 3,4 です。

## 問279

選択肢 1 ですが

グリセリンは、主に等張化剤として用いられます。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、その通りの記述です。

パラオキシ安息香酸エステル類の他、塩化ベンザルコニウム、クロロブタノール、クレゾールなどが代表的保存剤です。ちなみに、輸液のような大量に用いる製剤には、添加しません。

選択肢 3 ですが

セタノールは、高級飽和脂肪族アルコールです。乳化剤、界面活性剤、増粘剤などに用いられます。抗酸化剤としては、用いられません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

白色ワセリンは、保湿剤です。乳化剤としては、用いられません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

モノステアリン酸グリセリンは乳化剤です。等張化剤としては、用いられません。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2 です。